

自民党区議会議員 24年6月号No.58 毎月1回発行

とりがい秀夫の地域ニュース

南千住8-3-3-201 電話&FAX (3807) 4811

携帯メール torigaihideo@ezweb.ne.jp



西川区長3選出馬表明 本会議 自民党議員の質問で答弁

荒川区議会定例会が6月19日より7月2日まで開催されています。初日の19日は各会派の議員が代表質問を行いました。議会ルールで本会議での質問は所属議員の最も大きい会派から質問を行うのが慣例となっています。現在、自民党は32名議員中13人が所属しており、多数会派として自民党が始めに質問を行いました。今回は北城議員が質問に立ち『西川区長三選目の出馬』について区長に質しました。区長は8年前、前区長逮捕という不祥事から立候補し当選してから今日を振り返り、900近い新たな事業を創り出した事。更に今後も防災対策・環境・リサイクル等進めていくために立候補する決意を示しました。



11月11日投票・自民党区議団支援

自民党としては今日までの実績を踏まえ、今後は政策協定を行い応援するとの考えを示しました。

(主な実績) 【交通】コミュニティバス汐入さくらの開設 【高齢者】350床に及ぶ特養ホームの誘致 【子育て】待機児解消策としての保育園を13カ所・1,100名増設 【教育】安全ステーション設置 【障害者】スクラム荒川設置 【環境】エコセンター設置 【安心・安全】夜間巡回パトロール稼働 【地域】ふれあい館整備等

【区長以外の経歴】早稲田大学客員教授 (H20.10~) 拓殖大学客員教授 (H22.11~) 聖学院大学客員教授 (H18.4~) 東北財経大学客座教授 (中国大連市) 公会計改革研究会市長部会会長 中小企業政策審議会委員 (経済産業省中小企業庁) (H18.2~) 23区区長会会長

日陰棚 よしず 汐入公園噴水前パーゴラに葎簀張り

6月4日完了 崎山前都議 都への要請実る

本紙5月号で掲載しましたが、噴水前のパーゴラ(日陰棚)に日陰防止の機材を設置してほしい。との要請に対し、崎山知尚前都議の都への働き掛けもあり6月4日に工事が行われました。当初は2基の予定でしたが、3基に葎簀(よしず)が張られ、その後、ここを訪れる多くの家族連れに利用され、利用者の中からも『助かりました』



と喜んで戴けるようになりました。現在も地域には多くの課題があります。私たちはそれらの声に対して様々なルートで解決しています。具体的には汐入公園内に、災害時に対応できるトイレの増設の声があり、現在、都の公園課で300万円の予算を計上し場所の選定や設計などを行っています。来年25年度には完成します。今後「この町に暮らしてよかった」と言える街づくりを進めていきます。

防犯・防災緊急用ホイッスル配布

7万人の区民対象 7月に各個配布

23区内で文京区に次いで2番目に犯罪件数の少ない荒川区(警視庁調べ)では高齢者・障害者・子供達を対象として、身の危険を感じたときに助けを求めるときの「命のホイッスル」を7万人区民を対象に配布することになりました。配布の方法は7月から町会等を活用し配布します。ホイッスルの内部には住所・氏名・血液型・緊急連絡先等が書き込めるシートが収容できるようになっています。いづれにしても、どんな便利な物でも持ち歩かなくては「宝の持ち腐れ」になってしまいます
問い合わせ—3802—3111 内線403・区民生活部安全課



「ご縁がつながる」3つの「様」を大切に！生活の知恵①

日本語は「和語」と言われ、とても「和む」言葉とされています。特に「様」がつく言葉を大切にしている方もいます。①相手の苦勞をねぎらう「お疲れ様」②助け合いの気持ちを表す「お互い様」③目に見えない力に迄感謝する「お陰様」この3つの「様」は「人の心を育てる言葉」とされており、口にすればするほど、相手の心が和み、自分自身の心も大きく、広くなっていきます。ただし、心の中で思っているだけではだめで相手に対し、口にすることが大事だという事です。これらの言葉も普段から頻繁に口に出していないと、どんどん言いにくくなって、心が鈍化していきます。声を出すと、音として耳に入り、自分自身の心に響くという好循環が生まれます。無口な人も、あまり言わなかった人も今日から、今から「お疲れ様」「お互い様」「お陰様」この3つだけはどンドン口にして、相手の心も、自分の心を和ませましょう。—次回に続く—

汐入「ゴルフ芝楽会 194回」 7月の御案内【未加入者用】

日時 7月25日(水) AM5時30分出発

汐入スーパー「三徳」前、大型バス利用
コース 「カバヤゴルフ」茨城水戸IC方面
費用 1Rセルフ・昼食・バス代・パーティー代・年会費1回分(概算)15,000円位
帰宅 午後6時頃—帰宅後、直ちにパーティー開始(町会事務所)
申込み・問い合わせ—

高山090-2549-7209

鳥飼090-1201-1297

記

本会は30年前に南千住8丁目に在住・在勤者を対象に組織されたゴルフ会です。会員は30名ほど加入しています。年間6回(奇数月)平日の水曜日を中心にコンペを開催しています。年齢は30才代~80才代と幅広く、スコアは70~100前後の中で競っています。年4回は「カバヤゴルフ」2回は「若洲」「常陽」等近場を利用。来年は200回記念でそれにふさわしい場所を企画しています。是非、この機会に下見で結構ですからご参加お待ちしております。

会長 伊藤正文



第6回 日光道中歩き 春日部宿~杉戸宿

日時 7月29日(日)

出発 朝8時10分

集合 メトロ南千住改札汐入側

交通費 1200円位

申込み—直接集合場所へ 雨天中止

距離 約7キロ 解散12時頃

行程 南千住~北千住~春日部~

徒歩~東武動物公園~解散

日本橋からスタートし、春日部まで来ました。参加者は15人前後でしょうか。車とも、自転車とも違う空気を吸いながら、おしゃべりしながら目的地をめざしています。時間のある方は勇気をもってご参加ください

地域の歴史を訪ねて—23

汐入に実在した魚市場③

大正 14 年 2 年間の幕を引く

前回のあらすじ—大正 12 年 9 月に発生した関東大震災は 10 万人以上の被災者と共に都市の生活を麻痺させました。日本橋にあった魚市場も機能しなくなり急遽、芝浦に仮移転をして営業するが、そこまで運ぶ輸送手段がなく、ほとんどの魚介類を腐らせる事になってしまいます。その状況を見ていた南千住の住民が新たな魚市場の開設に動き出します。民間人による魚市場の開業の歴史です

大正 12 年 11 月の朝日新聞も**一人助けに生まれた新しい魚市場** 汐入村の葦の角に去廿五日から開業と見出しをつけて次のように報道しています。【汐入村の葦の繁った一角に新しい板張りの小屋が立ち並び赤い魚に黒く「セ」の字を染めた旗が翻っている】当時の



魚市場のあった展望塔付近（三中東）

「汐入魚市場」の土地は河川敷の湿地帯を利用したため、石炭ガラを敷いて整地

を行い水はけを良くしました。広さは約 1,500 坪位でここに 500 坪の売り場、50 坪の事務所と広場を作ります。店舗の間取りは間口 2 間、奥行き 3 間で、開業時には 26 軒でしたが、後に 60 軒まで増設したことはかなり賑わったようです。買い出し人は 1 日、300 人位で常磐沿線の小売商や北関東の方からも来たようです。1 店舗の売り上げは平均で 4~50 円台。【当時・白米 10 キロ・2 円 18 銭】鮮魚関係が 80%。塩干物が 20%の割合で扱っていました。賑わいを見せた**「汐入魚市場」**も大正 12 年 3 月に公布された中央卸売市場法による 1 地方 1 市場ルールにより、2 年間の役割を終え、大正 14 年 2 月 26 日—汐入から西新井市場（足立区桜木町・西新井橋際）へ移転していきます。更にこの北魚市場は昭和 20 年 2 月に現在の千住大橋にある千住足立市場へと引き継がれる事になります。

「汐入魚市場」の賑わいによる影響で、汐入の町も大きく変貌を遂げていきます。